

3 扇ノ山

ランク: A

生態系区分
山地

区分レベル
大

含まれる生態系(生態系区分)
霧ヶ滝渓谷(渓谷)
岸田川源流域(溪流)
上山高原山頂付近(草原)

市町名
養父市・美方郡新温泉町

場所
-

選定理由

希少性	多様性	特殊性	脆弱性	分布限定性	人との関わり	複合性

保全制度
国定公園

概要

扇ノ山は標高1310mで、山頂付近には自然性の高いブナ林が成立している。県域では限られたブナ帯の生物の生育・生息場所として重要である。コルリクワガタ、ヒメオオクワガタ、ヒゲジロホソコバネカミキリなどの甲虫類を始め、多様な昆虫類が生息する。猛禽類の希少種も生息する。

山地樹林を中心とした大生態系で、霧ヶ滝渓谷や岸田川最上流域などの渓谷、溪流環境を含む。

【霧ヶ滝渓谷】

ブナ群落や渓谷林のトチノキ・サワグルミ群落が分布する。クロシジミ、ギフチョウ、オナガシジミ、各種カミキリムシなど希少な昆虫が多数生息する。

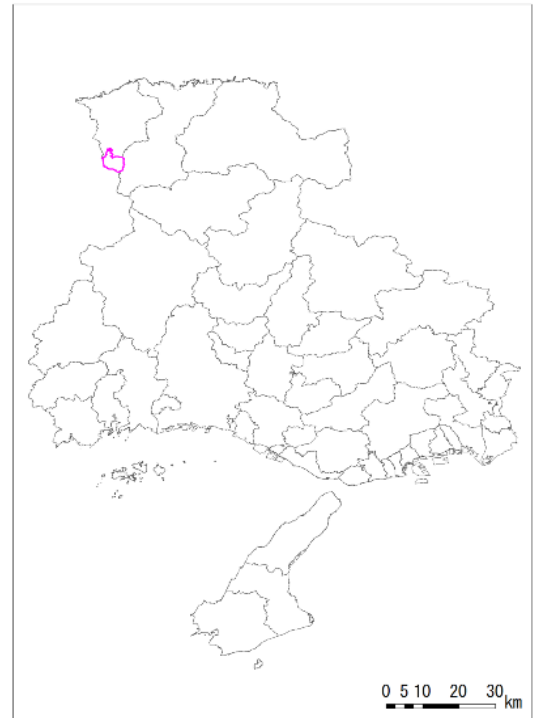
【岸田川源流域】

兵庫県でイワナを多産する唯一の河川。源流部では山付き区間が多い。山地溪流に典型的な魚類相(イワナ・ヤマメ・カジカなど)がみられる。

淡水貝類のニクイロシブキツボ(環境省・準絶滅危惧)の生息地の南限として重要であり、日本の重要湿地500に選定されている。

【上山高原山頂付近】

放牧や採草地として利用され定期的な火入れのもとススキ草原として維持されイヌワシのえさ場として成立してきたが、人の利用が途絶えたため遷移が進み、草原の景観が失われつつあった。また、ブナの森として広がっていたが、ブナが伐採され、昭和30年代にスギ人工林が一斉に造林されたが育たず、間伐等も実施されないまま放置され、生物多様性が著しく低下していた。かつての姿に復元するため、官民一体となって上山高原及びその周辺地域で「上山高原エコミュージアム」の取組を進める中、自然再生・保全としてブナ林、ススキ草原、イヌワシ、ツキノワグマ等の高標地の生態系の維持・回復を図っている。



写真提供：田中哲夫